

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月12日

事業所名 放課後等デイサービス・児童発達支援事業 ちゅうりっぷ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	60%	40%		今後、子どもが増える事が予想される事で狭いと感じる事がある。
	2	職員の配置数は適切である	100%		配置基準に沿って適切に運営されている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%		全面バリアフリー化されており、トイレも車椅子で入室可能な広さがある。又、更衣室までおむつ交換が可能な台も設置されている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		全ての活動、行事は企画書に基づいて実施、終了後は報告書に記載し月末の職員会議で振り返り評価している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	50%	50%	年に1度保護者と個別に面談し、要望等を聴取し職員で共有している。	次年度は保護者向け評価票を活用し対応を予定している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		100%		今後、対応を予定している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%		相談システムを利用し子ども達の支援に活用している。	
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		様々な研修に派遣し資質の改善に繋げている。又、自己研修の機会も設定している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		機会を設けて保護者と子どものニーズを聴取、課題を分析し解決に向け支援計画書に反映している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%		事業所独自のツールを利用し対応、保護者から聴取する事で自宅の様子と、事業所での様子と様々な面から確認している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		会議で話し合い、全体で計画している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		慣習行事や外出行事等適宜組入れ、固定化しないよう対応している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%		形態に合わせた課題を設定し対応している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%		活動時間を設定し障害特性に合わせて対応している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		毎日、全職員で打合せを行い確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		終了後、全職員で振り返り共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		記録を充実させる事で検証や改善に繋げている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		年2回の支援会議を主として実施。その他、緊急性がある場合等も都度対応している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%		職員全員で読み合わせを行い、理解した上で支援に活かしている。		
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		担当職員及び児発管が対応している。		
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		必要に応じて行なっている。		

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%		現状、事業所での医療的ケアが必要な子どもの利用はないが、保護者を通して連絡する事は可能である。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		100%	事例なし。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%		生活介護事業所へケース記録の開示や情報提供等を行った。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%	研修に参加し情報を共有した。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	50%	50%		グループの保育園や幼稚園児と交流する機会はある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		100%		参加予定はあったが諸事情により参加出来なかった、次回は積極的に参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		送迎時や連絡帳等を活用し情報共有や相互理解を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		100%		今年度対応した事例はありません。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		丁寧な説明を心掛けている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		保護者の相談を傾聴しアドバイスをしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60%	40%		事業所主体の保護者会は存在しないが、保護者の障害に対する啓蒙活動や保護者間の連携を支援している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		苦情や要望があった場合、直ぐに全職員が共有し対応出来るよう、打合せの際に報告する項目を設けている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		会報誌を定期的に発行の他、行事毎に様子等を写真や文章で報告している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%		個人情報の取扱いについて同意書を説明し、確認後押印して頂いている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		保護者との情報の共有や子どもの様子について常に配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		100%		空間の確保が難しい為、招いての交流は出来ていないが、ボランティアや実習等は積極的に受入れている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%		保護者の方には重要事項説明の際に説明し、職員は研修会議等で読み合せをし確認している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		毎月避難訓練に積極的に参加している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		法人全体での研修や事業所での研修会議等定期的実施し確認している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%		組織的に決定し対応等のマニュアルはあるが当該事業所において事例はない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%		保護者を通し医師指示の下、適切に対応している。	

43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		全職員が確認し共有している。	
----	---------------------------	------	--	----------------	--

